

中山観光 季節のおはなし・旅便い

February
2月 号

早いものでもう2月ですね。

もうすぐ立春・・・暦の上では春を迎えようとしています。

まだまだ寒い日が続きますが

徐々に日が長くなってきたのを感じます。

うがい、手洗いをしっかり行い、風邪予防に気を付けて、

元気に寒い冬を乗り越えていきたいですね。



りっしゅん 立春

毎年2月に迎える立春・・・2023年の立春は2月4日
体感的にはまだまだ冬の気候ですが暦の上では春を知らせる日です。

立春は「春が立つ」と書くことからわかるように、春が始まる日という意味があり
立つという字には「始まる」という意味も含まれています。
立春は、立夏、立秋、立冬と並ぶ四立の一つで、二十四節気のなかでも大きな節目と
されています(o^ー^o)♡

「立春」を迎えると、暦の上では大寒が明けて厳しい寒さも徐々に和らぎ、
春の気配を感じられる頃と言われています。

でも暦の上では春といっても実際には1年で最も寒い時期・・・(>_<)
受験シーズンでもあるこの時期、雪の中を試験会場に向かう受験生の姿が
テレビに映し出され、寒さを強く印象付けられる思いがありますよね

今年2023年は、2月5日が初午の日

初午とは、2月最初の午の日。

お稲荷さんの総本山である京都の伏見稲荷大社に農耕を司る神様が
舞い降りた日とされています。

その後、全国各地の稲荷神社の祭りの日として広まっていったようです。

今年2023年は、2月5日が初午の日。

初午の日には、みなさんも良くご存知の身近な食べ物
「おいなりさん」を食べる風習があります。

いなり寿司は、古くは江戸時代より食べられており、庶民の食べ物として親しまれてきました。

1782年～1788年(天明2年～8年)にかけての「天明の大飢饉」には、油揚げの中に
御飯のかわりに「おから」をつめて屋台で売っていたようです

初午大祭の日には、稲荷神社の稲荷大神の使いがキツネだったことに由来し、
キツネの好物とされる油揚げや、中に酢飯を詰めた稲荷寿司を奉納します。
立春を迎える初午の日は、一年のうちで最も運気の高まる日とされています。
初午の日は、いなり寿司を食べて運気UPしましょう！

立春の前日の行事である節分では、
家中の戸を開け放ち邪鬼を追い払うように
「鬼は外、福は内」と豆をまきます。
鬼は悪いものを追い出してくれ
代わりに春を連れて来てくれます



2023年の恵方は「南南東のやや南」です。

節分は、季節の変わり目の日です。

現代でも、季節の変わり目は、気温の変化により体調を
崩しやすいといわれます。昔の人は、病気や災厄は鬼によって
もたらされるものと考えていました。

そのため、体調を崩しやすい季節の変わり目の節分には、
鬼をはらう邪気払いが盛んに行われるようになりました。

初午の日に食べるいなり寿司の数は3つ

「いなり」には、それぞれ

い = 命が延びる

な = 名を成す

り = 利益を上げる

の願いが叶う縁起物ということで、
3個のいなり寿司を食べようです。

2月11日は初午いなりの日

いなり寿司の発祥は、愛知県にある豊川稲荷の門前町



関東風



関西風

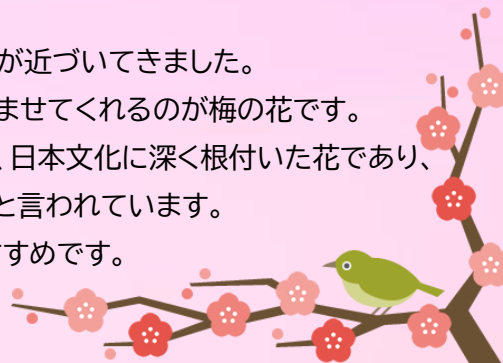
関東風には甘辛の濃いめの味付けで油揚げを煮ますが、関西風はだしを利かせて薄味
関東では「いなり寿司」と呼び、関西では「おいなりさん」と呼ばれる
関東は俵型→五穀豊穡を祈り米俵を模したものの酢飯には何も加えないか、ゴマなどを入れる
関西は三角形→きつねの耳を表している・酢飯に具材をまぜることが多く
「五目いなり」として販売



まだまだ寒い日が続きますが、少しずつ春の足音が近づいてきました。
そんな季節の変わり目に、鮮やかな色合いで楽しませてくれるのが梅の花です。
多くの日本人に親しまれ、愛され続けている梅は、日本文化に深く根付いた花であり、
かつては「花」と言えば桜ではなく「梅」だった・・・とされています。
待ち遠しい春を先取りするなら梅のお花見がおすすめです。



「花よし」「香りよし」「果実よし」と言われるように、
香りも良く美しい梅ですが、見るだけではなく、体にも良いのです。
また、松竹梅の一つであり「おめでたい」とされる花木でもあるので
新年・新春を祝うには欠かせない植物ですね。



梅は春の花の印象がありますが、冬の花とされています。
雪が降る厳しい寒さの中で、けなげに咲く姿が美しい梅の花。
桜よりも花を咲かせることが難しかったため、平安時代以前では貴族たちが
お花見をする花は梅の花となっていました。

梅一輪 いちりんほどの あたたかさ

服部嵐雪の句にもあるとおり厳しい冬の寒さの中で、
ほんの少し心をあたためてくれる梅の花を楽しむ梅まつりが
今年も各地で開催されます。

第127回

水戸の梅まつり

令和5年2月11日(土・祝)～3月19日(日)

会場 偕楽園・弘道館 (茨城県水戸市)



120年以上の歴史をもつ「水戸の梅まつり」。

会場となる偕楽園は金沢の兼六園・岡山の後楽園とともに日本三名園の
ひとつに数えられており、江戸時代天保13年(1842年)7月、水戸藩
第9代藩主徳川斉昭公により、領民の休養の場所として開園されました。

「水戸の梅まつり」は茨城県の二大梅まつりの1つです。

毎年梅の見頃時期になると偕楽園や弘道館の周辺はとっても賑やか！
水戸の梅まつりは2つの会場セットで楽しむのがおすすめです。

園内には約100品種3,000本もの梅が、
春の訪れを告げるかのように可憐に咲き競います。
様々な品種があるため、「早咲き」「中咲き」「遅咲き」と
長期間にわたり観梅を楽しむことができるのも魅力です。
梅の花言葉
「高潔」「忠実」「気品」「厳しい美しさ」「あでやかさ」
まさに冷たい空気の中、早々に凛と咲く梅の姿を
表わす花言葉です。



偕楽園

梅

という漢字は、木へと毎の組み合わせ
「木」+「毎」=「梅」

「梅」は 沢山実をつけ、中国では古くから薬として、
妊婦を助けることから 縁起の良いものとされていたようです。
さらに、草木が 茂 しげ る意味から美しく茂る木「梅」を意味することで
漢字が成り立ちました。

梅とウグイス

「梅」は春一番に咲き始め、「ウグイス」は春の訪れ告げる「春告鳥」ともいわれて、共に親しまれました。
「梅にウグイス」は「取り合わせがよい2つのものを美しく調和するもの」の例えとして使われます。
しかし、実際によく梅の木にやってくる鳥はメジロだそうで、「梅にウグイス」は春を待ちわびる日本人の理想のイメージから生まれた取り合わせなのです。



弘道館の梅まつり

「松竹梅」のいわれ

平安時代に「松」が青々とした常緑樹で不老長寿を思わせる・・・ということから
おめでたいとされ、室町時代に入ると、節目正しく真っ直ぐ伸びて
風にも強い「竹」も縁起のいいものとして重宝がられました。
その後、江戸時代に入り、寒い季節にいち早く花を咲かす「梅」もめでたい・・・
といわれ、新春を彩るものとして定着していきました→



冬山のシーズンです

生徒さん達頑張っています

日の出が綺麗！

今年もありがたいことに冬山のお仕事をたくさん頂きました。
ありがとうございました

岳温泉「ながめの館・光雲閣」
おしるこ❤美味しかったです
心温まるおもてなし・ありがとうございました。

バスも雪だるまになっちゃった

安全のためにチェーンをかけています

